

3

朝鮮産米増殖計畫要綱

秘

大正十四年十月六日作製



目次

第一

一 産米増殖計畫促進必要ナル理由

(1) 産米増殖計畫實行ノ必要ナル理由

(2) 朝鮮ニ於テ特ニ其ノ必要ナル理由

(3) 大正十五年度ヨリ實行スルコトノ必要ナル理由

第二

二 産米増殖計畫ノ内容

概説

(1) 土地改良事業

(2) 農墾改良事業

(3) 自作農創成

第三 本計畫ノ効果

産米増殖計画ニ関スル説明事項

第一 産米増殖計画促進ノ必要ナル理由

(1) 産米増殖計画ノ実行ノ必要ナル理由

A 帝國全体ノ立場ヨリ必要ナル点

a 帝國食糧問題ノ解決ニ資スルコト

内地及北海道ニ於テハ將來一層濃厚ナル助成方法
ヲ講ズルニ従来ノ實績ニ徴シ現在ノ食糧ノ不足
及今後ノ人口増加ニ對應シ能ハサルコト

古貿易関係ヲ順調ナラシムルコト

現在内地ニ於テハ豊凶ニ依リ多クノ差ハアレトモ年々三
百万石内外ノ外米ヲ輸入シツツナル状況ニシテ之ヲ
石二十五円ト換算スルモ約七八千萬円ニシテ實ニ
我國輸入貿易中ノ大宗ト稱ス、之ニ對シテハ一日モ

早夕對策ヲ講スルノ必要アリ

○内地移民問題ノ解決ノ一助ナルコト

人口過剩國タル我國ニ於テ海外移民ノ途ヲ講スルハ必要ナル點ナルカ現在米國ブラジル及西北利亞ニ對シ大ナル期待ヲ持テ得ザルモ朝鮮ニ於テ本計畫ヲ實施スルニハ相當大規模ノ移民ヲ收容シ得ル余地アルコト

B朝鮮自体ノ立場ヲ必要ナル點

α朝鮮ニ於テ農業經濟運轉並ニ高經濟ノ向上ヲ計ル

コト

朝鮮總人口ノ約八割ニ分ハ農家^{ニテ此等農家}ノ生計ハ多クノ副業收入ハプロトモ真ニ微々タルモノニシテ其ノ大部分ハ米穀ノ收入ニ依ルモノト云フコト將來本計畫ノ實施ニ

ニ依リ及昔收獲ニ増加スルトモ貧弱ナル朝鮮ノ

農業經濟同様に一大福音ナルヘク述テハ朝鮮全體

ノ經濟力ヲ伸張セシムルノ捷徑ト云フヘシ

△朝鮮内ノ需要増加ニ備ヘ得ルコト

鮮内ニ於テ米一人當消費量ニ年次増加ノ趨勢アル

ノコトナリ人口ノ増加ト共ニ現在ノ從一設置スルトキハ

將來の總ニ對スル移住余力殆ト無キニ至ル虞アリ

○一般農事改良ノ施設ニ對シテ其ノコト

幼稚ナル朝鮮ノ農家ニ對シテラニ多種多様ノ經濟

上ノ施設ヲ為スハ彼等ヲシテ煩ニ堪ヘザラシムルノ

チラス却テ其ノ實績ヲ奉テ得サルノ憾アリ述テ農

民ノ信賴ヲ薄カラシムルノ虞ナントモス

農業經濟上最ニ密接ナル關係ヲ有スル產米増殖

ニ對シ微底均ノ施設ヲ講シ其ノ實績ヲ奉ルニ於テハ政府ニ對スル信頼ヲ増加スルニ至ルヘク將來諸般ノ施設改善上多大ノ貢獻ヲ為スヘシ
思想善導延テハ朝鮮統治ノ上ニ多大ノ貢獻ヲ為ス

今日用島及西北利立ニ散在シ朝鮮統治ヲ指導スル總督モ多クハ糊口ニ窮セル結果ニシテ役等ニ何等カノ名實ヲ求メ生活ノ転換ヲ希望スルノ風アリ
之等ノ輩ヲ土地改良事業ニ招致シ相當ノ保護指導ヲ與ヘ恒産ヲ得ルニシテ途ヲ開ケ、所望ノ中心ノ主レ自ラ改良ト化スルト困難ニテラカ

朝鮮ニ於テ持テ其ノ必要ナル理由

A 朝鮮ハ利小屬米作ニ適スルコト

朝鮮ノ西北部ハ氣候ノ關係上米作ニ適セザルカ如ク誤解スル者多シト雖事實ハ内地ノ緯度ノ地ニ比シ夏季稻作期間ノ氣温高ク其ノ日射時間ノ如キモ長キヲ以テ却テ米作ニ有利ニシテ最北端ニ於テ尚及霜殺六石ヲ超過スル收穫ヲ奉ケタル

實例アリ

B 朝鮮ニ於テハ耕地ノ改良擴張ノ余地多キコト

朝鮮ニ於ケル水田總面積百五十五萬町步中完全ナル灌溉設備ヲ有スルハ僅カニ三十九萬町步ニ過キザルカ殘餘ノ面積ニ對シテモ相當ノ保護獎勵ヲ加フルニ於テハ良田ト化スルコト難事ニテラズ

東ノ調査ニ依ルニ事業ノ最モ容易ニシテ有利ナル
モノ灌漑及善田十萬町歩地目交換二十萬町歩
開墾千石二十萬町歩ノ見込ナリ

已土地改良ノ施行ニ伴ヒ耕種法ノ改良ニ依リ産米
増加ノ余地多キコト

朝鮮ノ水田ハ灌漑設備ヲ有セサル結果其ノ耕作
法ノ如キモ煩ル粗笨ニシテ肥料ノ如キハ殆ント施サ
ザリシクノ及畜收穫ノ如キモ従来平均粗一石二三
斗ニ過ギザリシカ將來本計畫ノ實施ヲ見ハ耕作
法ノ如キモ政府ノ奨励ト相俟テ大ニ改善セラレハ
ク及畜平均三四石ノ差ヲ生ラシト困難ニラサレハ
D朝鮮ニ於ケル産米増殖ニ要スル費用ハ従来ノ如ク
朝鮮ニ於テハ未ク地價及勞銀内地ノ夫ニ比シ低廉

ナルヲメ土地改良事業ヲ遂行スル上ニ於テ頗ル有利
ニシテ其ノ費用ノ如キモ大体内地ノ半額ニテ足ルコト
E産米増殖ニ對シテ國ノ助成費ハ少額ニテ足ルコト
朝鮮ニ於ケル土地改良事業ニ要スル費用低廉ナ
ルヲ以テ之ニ要スル資金モ亦少額ヲ以テ足り従
テ國ノ支出スル助成費ノ如キモ少額ヲ以テ足ルハ
シ

(3) 大正十五年度より実行スルコトノ必要ナル理由

朝鮮ニ於テハ大正九年産米増殖計畫ヲ樹立シ十五ヶ
年間ニ約四十二萬七千町歩ノ土地改良ヲ施行シ以
テ内地及朝鮮ノ需要ニ充フルノ計畫ナリシカ其ノ
後工事費ノ騰貴及政府財政緊縮ノ結果補助金
ノ減額等ニ依リ大正十四年末ニ至ル六ヶ年間ニ成功

ノ見込約九万町歩ニシテ豫定ノ五割五分ニ過キス
現在ノ儘ニ放置スルトキハ到底所期ノ目的ヲ達ス
ルコト能ハサルヲ以テ一旦モ早ノ其ノ速成ヲ計ラサル
ヘカラス

本計畫ハ三十五万町歩ヲ回後十一年ニ完成セシムルモ
内地及臺灣等ノ增收計畫ト相俟テ漸ク十々年後
ニ於テ國內ノ需要ヲ充タシ得ルニ過キス

第二 産米増殖計畫ノ内容

(1) 概説

叙上ノ理由ニ依リ朝鮮産米増殖計畫ハ一日モ忽カセニ
スル能ハサルヲ以テ大正十一年以降十箇年間ニ三十五万町
歩ノ土地改良事業ヲ遂行スルト共ニ此等ノ土地ニ肥料ノ
増施ヲ奨励シ更ニ朝鮮古来ノ悪風タル土地兼併ノ現
状ヲ打破シ農民ヲシテ安シテ農事ニ精勵スル路ヲ講セ
ムトス

(2) 土地改良事業

A 土地改良事業ノ趣旨

土地改良事業ハ耕地ノ改良及擴張ヲ目的トスルモノニシテ
(1) 既成水田中用水不足ノモノニ對シ灌漑ノ設備ヲ完
成スルコト

四畑地ヲ交換シテ水田トナスコト

ハ草生地干潟地ヲ開墾干拓シテ水田トナスコト
ヲ總稱スルモノトス

朝鮮ニハ現ニ百五十万町歩ノ水田存スルモ中百十六万
町歩ハ全然天水ニ委セル狀況ナリ是等ノ水田中ニ
ハ灌漑ノ設備ヲ為セハ良田ト化シ得ルノ廣大
ナル面積ニ達ス此ノ外地目交換開墾干拓シ得ル
餘地モ尠カラス且此等ノ土地ニ對シ土地改良ヲ實
行スレハ相當ノ收穫ノ增收ヲ期シ得ルコト亦疑ヲ容
レス産米ノ増殖ハ土地改良ノ實現ニヨリテ始メテ
其ノ目的ヲ達成シ得ヘク土地改良事業ハ産米増
殖計畫ノ根幹ヲ為スモノト云フヘキナリ

B 土地改良事業ノ實行方法

従来朝鮮ニ於テハ斯業ノ助成方法ニ就テハ何等見ルヘ
キ施設ナカリシモ食糧問題解決ノ急務ニ鑑ミ大正
九年第一期朝鮮産米増殖計畫ヲ樹立シ事業ノ促
進ヲ期セリ該計畫ハ事業ノ主體ハ各企業家ヲシテ
之ニ當ラシメ政府ハ之ニ對シ指導奨励ノ路ヲ講スル
コト、セリ

a 企業ノ態様

本事業ヲ施行スルニ當リ水利組合ノ形式ニ依ル
モノアリ或ハ個人若シテ共同事業(會社事業)モ
含ムニ依ルモノアレトモ比較的大規模ノモノハ大体水
利組合ノ形式ヲ採用セリ
但シ開墾干拓ハ現行朝鮮水利組合令ノ規定ニ依リ
組合自身之ヲ施行又ハ經營ノ能力ナキヲ以テ悉

ノ後者ノ形式ニ依ル

既設水利組合ノ總數六十六ニ及ヒ個人事業ト合セ

大正九年以來ノ事業ニ着手シ大正十四年度未迄ニ

完成シ若クハ完成ノ見込ノモノ約九萬町歩ヲ算ス

左政府ノ助成方法

1. 耕地改良擴張ニ關スル基本調査

各般ノ土地改良事業ヲ實施シ得ヘキ個所頗ル

多キ見込ナルモ從來精確ナル調査資料ニ乏シ

カリシヲ以テ政府ニ於テ全鮮ニ亘リ基本調査ヲ

行ヒ其ノ所在面積・利用方法・工費及收支等ノ

概算ヲ指示シ企業者ノ羅針盤タルヲ期セリ

口土地改良事業ニ對スル補助金ノ交付

水利組合事業タルト個人事業タルヲ問ハス左

ノ種類別ニ從ヒ二割乃至三割ノ補助金ヲ交付ス

既成水田ノ灌漑改善 二割

開田ヲ目的トスル地目変換 二割五分

開田ヲ目的トスル開墾开拓 三割

大正十四年度ニ於ケル補助金豫算ハ三百三十萬円トス

ハ事業ノ指導及監督ノ職員設置

總督府殖産局ニ土地改良課ニ課ヲ新設シ前

述目的ノ為職員ヲ設置シ事業ノ着手ニ當リ

豫メ計畫ノ内容ヲ審査シテ之ヲ許可スル

ト共ニ許可後モ監督ヲ加ヘ遺漏ナキヲ期シツ、

アリ

シ本計畫ノ内容

帝國ノ食糧問題解決ノ急務ニ鑑ミ三五萬町歩ノ

土地改良事業(内河、灌漑改善十八萬町歩、地目
変換九萬町歩、開墾干拓七萬五千町歩)ヲ向後十年間
ニ施工セントスルモノニシテ此カ達成ヲ期セムカ為ニハ從來ノ
助成方法ニテハ尙遺憾ノ點尠カラサルヲ以テ事業ノ
種類ニ應シ更ニ大体左ノ方法ニ依リ速進セムトス
イ政府ニ於テ設計監督ヲ為ス分

本府ニ於テ基本調査施行済ノ地域ニシテ一地區
ニ百町歩以上ノ水利事業ノ其ノ實施設計モ政府ニ
於テ為シ之ヲ組合ニ下附シ其ノ工事實施ニ當リテハ
政府ヨリ技術員ヲ派遣シ監督ニ當ラシムルコト
其ノ施行面積ハ一十年一萬四千町歩十年十四萬町歩ト想
定スルコト

口民間會社ニ於テ工事代行ヲ為ス分

一地區ニ百町歩以上ノ面積ニシテ政府ニ於テ實施設計ヲ
為ス分ヲ除キタルモノニ就キ(但シ水利組合事業タルト個
人事業アルトヲ問ハス)企業者ノ依頼ニ依リ民間會
社ヲシテ工事ヲ代行セシムルコト

其ノ施行面積ハ一十年一萬町歩宛十年十萬町歩ト想
定スルコト

ハ地方廳職員ニ依ル分

一地區ニ百町歩未滿ノ小規模事業(水利組合事業
タルト個人事業タルトヲ問ハス又地目ノ如何ヲ問ハス)
地方ノ實狀ニ鑑ミ機宜適切ノ指導獎勵ヲ採ラ
シムル為地方ニ廳ニ技師一名以下ノ職員ヲ新設シ
之ニ當ラシムルコト

其ノ施行面積ハ一十年六千町歩宛十年十萬町

歩ト想定スルコト

二大規模ノ個人企業ノ分

大規模ノ開墾ノ拓事業ノ如キハ寧ロ企業者ノ
手腕ニ一任スルヲ適當ト認メ從來ニ比シ特別
ノ施設ヲ為サズ低利資金ノ斡旋ニ止ルコト
其ノ施行面積一ヶ年五ヶ町歩十ヶ年五萬町歩ト
想定スルコト

日本計畫ニ要スル事業資金ノ供給方法及政府ノ支
出金額

右三十五萬町歩ノ土地改良事業ヲ施行セムトモハ及當
平均約七十五円ノ純工事費ヲ要スルモノトシ純工事
費總額二億六千二百五十萬円、右ニ對スル事務費及
豫備費四千七十九萬円合計三億三百二十五萬円ノ總

事業費ヲ必要トス然ルニ從來朝鮮總督府ノ事業
ニ對スル補助率ハ内地ノ大レニ比シ頗ル低率ナルノミ
ナラス金利ハ却テ内地ニ比シ遙カニ高率ニシテ為ニ企
業者ノ採算甚タ困難ナルモノアリ

是レカ對策トシテハ現行ノ補助率ヲ増率スルカ或ハ
事業ニ對シ低利資金ヲ供給スルカノ孰レカノ方法ニ
依ラサルヘカラス

然ルニ補助金増率ノ方法ニ依ルトキハ本計畫遂行ノ
為年額約一千萬円ヲ要シ現在ノ補助金比シ約七百萬
円ノ増加ヲ必要トシ到底分負弱總督府豫算中ヨリ
捻出スルハ困難ナルノミナラス財政緊縮ノ中央政府ニ
對シ之ヲ財源ヲ求ムルモ不可能事ニ屬スルヲ以テ
本計畫ハ低利資金案ヲ以テ當ト認メ前記事業

費總額三億三百二十五萬圓中ヨリ政府ノ補助金六千
五百七萬圓ヲ控除セル殘額二億三千八百十八萬圓ヲ政
府ノ低利資金ヲ仰クモノトシ其ノ年額平均二千三百
八十萬圓餘ヲ必要トス

右事業資金ノ低利融通ヲ為ス外ニ本計畫ヲ十ヶ
年間ニ敢行スルトモ、補助金年額約六百五十萬圓ヲ
要シ大正十四年補助金豫算三百三十萬圓ニ比スルト
キハ約三百二十萬圓ノ增額トナリ尚前述ノ設計監
督ニ従事スル職員ノ新設ニ依ル人件費増年額約
五十萬圓ニ達シ此等ニ要スル費用ハ朝鮮總督府
豫算ヨリ捻出スル見込ナリ

(3) 農事改良事業(肥料資金ノ低利貸付)
A 事業ノ内容

前記ノ土地改良事業ヲ遂行スルモ從來ノ如キ粗策ナ
ル料作法ヲ繼續スルニ於テハ其ノ收穫ノ如キ到底
豫期ノ如キ成績ヲ收ムル能ハサルモノニシテ大正九年
ノ産米増殖計畫ニモ料種法ノ改良獎勵ニ力ヲ
注キ品種ノ改良、病虫害ノ驅除、除草等稍々見ルヘ
キモノアリト雖モ收穫増收上最モ効驗大ナル金
肥其ノ他ノ肥料ノ施行ニ至リテハ未タ微々タルモノ
ニシテ其ノ主因ハ固ヨリ灌漑ノ便ナキ水田多キニ依
ルト雖モ一面此等ニ要スル資金借入ノ路無カリニト
偶ニ存スルモ民間金利月二分乃至三分、特殊銀行ノ
貸付ニシテ尚年一割二分前後ノ高利ナルヲ以テ
躊躇スルノ風アルニ依ル

故ニ本計畫ニ於テ新ニ農事改良ニ對スル施設ト

シテ肥料ニ對スル低利資金ノ貸出ヲ為サントス

B 事業ノ實行方法

現在ニ於テ灌漑設備ヲ有スル水田及本計畫ニ依ル
三十九萬町歩ノ水田ニ對シ大豆粕一枚及其他肥料
ヲ施シ土地改良未施行地ニ對シテ青刈大豆等ノ緑肥
ヲ奨励セムトスルモノナリ

C 資金

販賣肥料及緑肥ノ種子購入代金ニ對シ年額四百
萬円宛總額四千萬円ノ低利資金ヲ供給セントス

(4) 自作農創成

朝鮮ニ於ケル農村推移ノ状況ヲ見ルニ自作農殊ニ自作
兼小作農ハ漸次減少スルノ風アリテ現在ノ儘ニ放任セム
カ健全實ナル農村ノ發達ハ望ミ得サルノミナラス土地ニ

對スル愛着心ヲ失ヒ食糧問題ノ解決上支障勘カ
ラサルヲ以テ毎年一千戸ヲ限リ思想堅實ニシテ農事
ニ熱心ナル者ヲ選定シ一戸當リ水田一町歩、畑五反歩乃
至一町歩ノ購入資金及耕牛其ノ他ノ購入資金二千円ヲ
低利ヲ以テ貸付ケテ十年ヲ期シ一万户ノ自作農ヲ創
成セムトス
之ニ要スル資金年額二百萬円ニシテ十年總額二千萬
円ヲ必要トス

第三 本計畫ノ効果

本計畫完成ノ曉ニハ約八百二十万石ノ米ノ增收ヲ得ヘ
ク假ニ一石三十五升ニ換算スルトキハ二億八千九百萬田ノ
巨額ニ達シ本計畫畫ニ要スル費用ハ一ヶ年ノ增收ニ依リ
畧回収スルコトナルヘシ

前記八百二十万石ノ增收収譯ヲ示セハ左ノ如シ

A 三十五万町歩ノ土地改良事業施行地ヨリ得ラルヘキ
增收高 約四百七十七万石

B 土地改良ヲ施行セザル百三十九万町歩ニ對シ耕作法ノ
改良ノミニヨリ得ラルル增收高 約三百四十四万石

計

約八百二十一万石

第一表 土地改良事業計畫更新二件ノ經費増額調 (千円)

年次	新計		舊計		増額	
	人件費	補助金	人件費	補助金	補助金	補助金
大正五年	一、一三三	三、一一一	一、一三三	一、二九二	三、七二	一、九六四
同十六年	一、五五六	五、六〇七	一、五五六	二、三〇六	二、七六八	二、四〇七四
同十七年	一、五五六	四、八八八	一、五五六	一、三三三	三、六六四	二、七七八二
同十八年	七〇七	六、五〇七	七〇七	二、四一八	三、六一〇	二、七、七二二
同十九年	七〇七	六、五〇七	七〇七	二、四一八	三、六一〇	二、七、七二二
同二十年	七〇七	六、五〇七	七〇七	二、四一八	三、五〇二	二、七、八三〇
同二十一年	七〇七	六、五〇七	七〇七	三、二九四	三、七一二	二、八〇五八
同二十二年	七〇七	六、五〇七	七〇七	三、二七四	三、九四〇	二、八〇五八
同二十三年	五七八	六、五〇七	五七八	三、〇七〇	四、一四四	二、七、七六三
同二十四年	四八六	六、五〇七	四八六	二、六五八	三、七一四	二、七、八九七
同二十五年	四八六	三、三九六	四八六	二、〇二八	二、七三九	一、三、二六四

同二十六年	四八六	九〇〇	六三一二	三、六九八	一一六	七六二	八七八	五〇八	二、八二〇
計	八八〇六	六、九〇七	二三八、一八〇	三二二、〇九六	三二六七	三四、〇九七	三七、三二四	三六、九三二	二、七四七、三八

備考

×印ハ從來ヨリノ繼續工事ニ要スルモノナリ

第二表 朝鮮産米増殖計畫完成ニ依ル米増収見込表

原因別	面積		備考
	反	當	
土地改良	一八五、〇〇〇	一、〇五	一九四、三五〇
灌溉改善	九〇、〇〇〇	一、八五	一、六六五、〇〇〇
地目変換	七五、〇〇〇	一、五五	一、一六二、五〇〇
開墾干拓	三五〇、〇〇〇	平均 三六	四、七七〇、〇〇〇
計	三九〇、〇〇〇	〇、五五	二、一四九、〇〇〇
土地改良	九七五、〇〇〇	〇、一五	一、二一八、七五〇
灌溉便利ノ畝	三九〇、〇〇〇	〇、五五	二、一四九、〇〇〇
陸稻	七、五〇〇	〇、八二五	六、一八七五
反別擴張	一七、八〇〇	〇、一五	二、二二五〇
栽培法改良	一三九〇、三〇〇		三、四四七、八七五
計	一、七四〇、三〇〇		八、二一七、八七五
總計			

第三號表

肥料資金年別所要見込高

年次	大豆粕		大豆粕以外販賣	
	施用枚数	購入資金	肥料購入資金	販賣肥料購入資金總額
大正十五年	一、二一六、四〇〇	三、六三七、二〇〇	二、九〇九、七六〇	六、五四六、九六〇
同 十六年	一、六七七、六〇〇	五、〇三二、八〇〇	四、〇二六、二四〇	九、〇五九、〇四〇
同 十七年	二、一九九、六〇〇	六、五八六、八〇〇	五、三六九、四四〇	一一、八九六、二四〇
同 十八年	二、七六六、三〇〇	八、二九八、九〇〇	六、六三九、一二〇	一四、九三八、〇二〇
同 十九年	三、三九〇、〇〇〇	一〇、一七〇、〇〇〇	八、一三六、〇〇〇	一八、三〇六、〇〇〇
同 二十年	四、〇六六、四〇〇	一二、一九九、二〇〇	九、七五九、三六〇	二一、九五八、五六〇
同 二十一年	四、七八九、六〇〇	一四、三五六、八〇〇	一〇、四八九、四四〇	二五、八四六、二四〇
同 二十二年	五、五七七、六〇〇	一六、七三三、八〇〇	一三、三八六、二四〇	三〇、一一九、〇四〇
同 二十三年	六、四一三、四〇〇	一九、三三七、二〇〇	一五、三八九、七六〇	三四、六二六、九六〇
同 二十四年	七、三〇〇、〇〇〇	二一、九〇〇、〇〇〇	一七、五二〇、〇〇〇	三九、四二〇、〇〇〇

大正十五年一月

朝鮮産米増殖計畫要綱

朝鮮總督府

目次

第一章	産米増殖ノ必要……………	一頁
第二章	朝鮮産米増殖ノ好望ナル所以……………	二
第三章	朝鮮産米増殖ニ對スル從來ノ施設……………	五
第四章	朝鮮産米増殖更新計畫……………	八
第五章	本計畫ノ効果……………	一一
附表		
一	内地ト朝鮮ノ氣温比較表……………	一三
二	同 日照時數比較表……………	一四
三	朝鮮米輸移出額表……………	一五
四	内地ニ於ケル外國米輸入量及金額表……………	一六
五	朝鮮産米増殖計畫總括……………	一七
六	土地改良施行面積表……………	一八
七	事業資金所要額表……………	一九
八	政府斡旋資金使途區分表……………	二〇
九	同 利率表……………	二一
十	産米増殖計畫完成ニ依ル米ノ增收見込表……………	二二

朝鮮産米増殖計畫要綱

第一章 産米増殖ノ必要

内地ニ於ケル米ノ消費ハ年額約六千五百萬石ナルニ國內生産高ハ約五千八百萬石ヲ出テスシテ年々之カ不足ヲ他ノ帝國版圖及外國ノ供給ニ仰キツツアルノ現状ナルカ内地ノ人口ハ年々約七十萬人ノ増加ヲ見ツツアルノミナラス國民生生活ノ向上ト共ニ一人當米ノ消費量モ亦漸次増加スヘキハ必至ノ勢ナルヲ以テ現状ヲ以テ推移セムカ將來米ノ供給ハ愈々不足ヲ來スヘキカ故ニ今ニ於テ米穀ノ增收計畫ヲ樹立シ帝國食糧問題ノ解決ニ資スルコトハ眞ニ國策上喫緊ノ要務ナリト信セラるルノミナラス外米ノ輸入ハ之ヲ最近ノ統計ニ付テ見ルニ年々三百萬石内外ニシテ殊ニ大正十四年ニハ約五百萬石價格約一億二千萬圓ノ多キニ達シ我國輸入貿易中重要ナル地位ヲ占メツツアルノ現状ナルヲ以テ帝國版圖内ニ於ケル産米ノ増加ヲ圖リ以テ外米ノ輸入防遏ヲ畫スルハ實際貸借ノ決濟上至重ノ影響アルコト亦論ヲ俟タサル所ナリ

更ニ之ヲ朝鮮ノ立場ヨリ見ルモ内地ニ於ケルト均シク米及雜穀ハ住民ノ常食

ナルヲ以テ將來ニ於ケル人口ノ増加竝生活ノ向上等ニ伴ヒ鮮内ニ於ケル米ノ消費量漸増スヘキハ疑ナキ所ニシテ之カ對策トシテ産米ノ増加ヲ企圖スルノ必要アルハ勿論農家ノ主要作物タル米ノ增收ヲ圖ルハ現ニ其ノ經濟狀態極メテ貧弱ナル朝鮮ノ農民ヲ匡救スルノ捷徑タルト共ニ朝鮮ニ於ケル農民ノ數ハ全人口ノ約八割ヲ占ムルノ狀況ナルヲ以テ農家經濟ノ向上竝農民生活ノ安定ヲ期スルハ聽テ朝鮮全體ノ經濟力ノ伸張ヲ圖ル所以ニシテ朝鮮ノ産業開發ニ寄與スル所多大ナルヘキノミナラス延テハ朝鮮統治上ニ貢獻スル所亦鮮少ナラサルヘシ

二

第二章 朝鮮産米増殖計畫ノ好望ナル所以

更ニ産米増殖事業ヲ朝鮮ニ於テ施行スルコトノ有利ナル點ニ就キ其ノ重要ナル事項ヲ掲記セムニ左ノ如シ

一 到ル處米作ニ適ス

南部朝鮮ノ地方米作ニ有利ナルコトハ茲ニ云フ迄モナシ世間或ハ北朝鮮ノ地力氣候ノ關係上米作ニ適セサルカ如ク誤解スル者ナキニ非スト雖モ事實

ハ内地ノ同緯度ノ地ニ比シ夏期稻作期間ノ氣温高ク其ノ日射時間長キヲ以テ米作ニ適スルノミナラス内地ノ米作上農家ノ最モ恐ル、花期ニ於ケル暴風雨ノ憂少ク土質ニ就テモ米作上何等ノ缺點ヲ見サルナリ

二 耕地改良擴張ノ餘地多シ

朝鮮ニ於ケル水田總面積百五十五萬町步中比較的安全ナル灌溉設備ヲ有スルハ僅ニ三十九萬町步ニ過キサカ殘餘ノ面積ニ對シ相當ノ改良施設ヲ爲スニ於テハ之ヲ良田ト化スルコト難事ニアラス從來ノ調査ニ依ルモ前記水田中事業ノ最モ容易ニシテ且ツ經濟的ナルモノノミヲ採ルモ尙灌溉改善(灌溉ノ設備ヲ施工スルモノ)四十萬町ヲ算ス此ノ外畑及未墾地等中水田ト化シ得ルモノ尠カラサル見込ニシテ其ノ内工事ノ最モ容易ニシテ且經濟的ニ施工シ得ヘキモノ地目變換(畑地其ノ他ヲ水田ニ變換スルモノ)二十萬町步、開墾干拓(未墾地ヲ開墾シ又ハ干潟地ヲ干拓シテ水田ト爲スモノ)二十萬町步ヲ算スル見込ナリ

三 耕種法ノ改良ニ依リ增收ノ餘地多シ

朝鮮ノ氣候風土ハ前述ノ如ク米作ニ適シ其ノ天惠ニ於テハ内地ニ比シ敢テ

三

劣ル處ナシト雖モ其ノ單位面積ニ對スル最近七ケ年間ニ於ケル平均收量ハ九斗三升ニシテ内地ニ於ケル一石八斗五升ニ對比シ其ノ半ニ過キス其ノ原因種々アリト雖モ多年稅政ノ結果農政弛廢シ農家ノ疲弊甚タシク農産物ノ改良増殖ヲ企圖スヘキ意氣ト資本トチ缺如シ就中施肥ヲ行フモノ極メテ尠ク所謂掠奪農法ヲ行ヒ來リタル結果地味著シク瘠薄トナリタルニ起因スルモノニシテ將來灌溉設備ヲ完全ナラシムルト共ニ耕種法ノ改良就中施肥ノ増加ヲ圖ルニ於テハ其ノ收量ヲ倍加スルハ敢ヘテ難事ニ非ス

四

四 産米増殖事業ニ要スル費用ハ低廉ナリ

土地改良事業ヲ施行スルニ當リ地價及勞銀ノ高低ハ總事業費ニ影響スルコト甚大ナルカ朝鮮ニ於テハ地價未タ低廉ナルヲ以テ溜池敷地及用排水路敷地等ノ買收ニ費ス所比較的廉ニシテ特ニ事業ノ大部分ヲ占ムル勞銀ハ大體七十錢乃至一圓ニシテ企業者ノ利益尠少ナラス

五 産米増殖ニ對スル國ノ助成費ハ少額ニテ足ル

朝鮮ニ於ケル土地改良事業ニ要スル費用ハ前述ノ如ク比較的低廉ナルヲ以テ假リニ内地ト同一面積ヲ施行スルモノトセハ之ニ要スル資金モ亦少額ナ

ルカ故ニ從テ國ノ支出スル助成費モ少額ヲ以テ足ルヘシ

第三章 朝鮮産米増殖ニ對スル從來ノ施設

朝鮮ニ於ケル從來ノ産米増殖ニ關スル施設ヲ見ルニ何レモ其ノ計畫當時ニ於ケル民度及政府財政上ノ關係等ニ依リ勢ヒ實行容易ニシテ格段ノ資本ヲ要セス又之カ獎勵助成ノ爲成ルヘク經費ノ少額ナルモノヲ先ニセリ即チ品種ノ改良自給肥料ノ増施乾燥調製ノ改良等耕種法ノ改良ニ對シテハ從來相當獎勵ヲ加ヘ其ノ成績モ見ルヘキモノアリト雖耕地ノ改善擴張ハ農事改良ノ基礎タルニ拘ラス從來之カ保護獎勵ニ十分其ノ力ヲ盡スコト能ハサリシ爲是等ノ事業ハ遅々トシテ甚タ振ハサリシカ朝鮮總督府ハ大正九年鮮内ニ於ケル米ノ需用増加ニ備ヘ農家經濟ノ向上ヲ圖リ併セテ帝國食糧問題ノ解決ニ資センカ爲先ツ第一期計畫トシテ四十二萬七千五百町歩ノ耕地面積ノ改良及擴張ヲ行ヒ更ニ力ヲ耕種法ノ改善ニ盡シ以テ朝鮮産米ノ増殖ヲ企圖セリ今右計畫ニ屬スル施設ヲ列舉スレハ左ノ如シ

一 耕地擴張改良ニ關スル基本調査

五

灌溉改善地目變換開墾干拓等各般ノ土地改良事業ヲ施行スヘキ箇所頗ル多キモ從來精確ナル調査資料ニ乏シカリシヲ以テ本府ニ於テ全鮮ニ亘リ水系別ニ依リ地押的ニ基調(本)査ヲ行ヒ其ノ所在面積利用方法工費及收支等ノ概算ヲ摘示シ企業者ノ羅針盤ヲラシメムコトヲ期セリ

二 土地改良事業ニ對スル補助金ノ交付

大正九年十二月土地改良補助規則ヲ制定シ土地改良ノ事業ニ對シ補助金ヲ交付スルコトトセリ其ノ補助率ハ工事費ニ對シ左ノ割合トス

既成水田ノ灌溉改善

二割

開田ヲ目的トスル地目變換

二割五分

開田ヲ目的トスル開墾干拓

三割

三 事業ノ指導及監督ノ職員設置

總督府殖産局ニ土地改良課ノ一課ヲ新設シ前記目的ノ爲職員ヲ設置シ事業ノ着手ニ當リ豫メ計畫ノ内容ヲ審査シテ之ヲ許可スルト共ニ許可後ニ於テモ監督ヲ加ヘ遺漏ナキヲ期セリ

四 水稻品種ノ改良

從來農家ノ栽培セル水稻ハ其ノ種子雜駁ナル爲品質不良ニシテ收量亦多カラサリシヲ以テ之カ改良ノ必要ヲ認メ國庫ヨリ地方費ニ補助金ヲ交付シ系統的採種田ヲ設置セシメ優良種普及面積百萬町歩ノ水稻種子更新ヲ行フト共ニ各道ニ産米増殖ノ指導獎勵ニ従事スル道技手一名郡技手若干名ヲ配置セリ

爾來着々事業ノ進捗ヲ圖リタリト雖計畫ノ當初ニ於テ本府企圖ノ實行機關ノ實現ヲ見ス一方物價ノ昂騰ニ依リ事業費ノ増嵩セルニ關ラス朝鮮ニ於ケル本事業ノ助成方法ハ内地ノ夫レニ比シ頗ル低率ナルノミナラス金利ハ内地ニ比シ遙カニ高率ニシテ爲ニ企業者ノ採算甚タ困難ナルモノアリ加之從來本府ハ肥料ノ増施殊ニ自給肥料ノ増殖即綠肥堆肥ノ増産ニ力ヲ注キ更ニ販賣肥料ノ施用ヲモ獎勵シ來レルモ朝鮮ノ農家ハ由來其ノ資金ニ乏シク又假令之カ資金ヲ他ヨリ借入ルルトスルモ其ノ金利甚タ高率ニシテ民間ニ於ケル金利ノ如キハ月二分五厘乃至三分ヲ以テ普通トスル狀況ナルヲ以テ肥料増施ノ有効ナルヲ知り其ノ實現ヲ希望スル者モ容易ニ之ヲ實行スル能ハサルノ現況ニシテ其ノ成績十分ナラス爲メニ土地改良ヲ施行シタル地域ニ對シテモ其ノ施肥不充

分ニシテ土地改良ノ効果ヲ充分ニ發揮スルコト能ハサル等諸種ノ障礙ヲ來タシ事業進展意ノ如クナラス計畫ノ實施以來大正十四年末ニ至ル六ヶ年間ノ土地改良成功面積約九萬町歩ニ過キスシテ豫期ノ如ク産米増殖ノ成績ヲ實現スル能ハサルハ遺憾トスル所ナリ

第四章 朝鮮産米増殖更新計畫

朝鮮ニ於ケル産米増殖ノ事業ハ叙上ノ如ク諸種ノ點ニ於テ頗ル有利ナルニ拘ハラズ其ノ進展遲々タル所以ノモノハ計畫樹立當時ニ比シ物價ノ昂騰ニ伴ヒ工事費ノ比較的多額ヲ要スルコト及事業資金ノ金利八年九厘乃至一割一分ノ利率ニシテ斯ノ如キ高率ナル資金ヲ以テ利益ノ比較的菲薄ナル此種事業ヲ經營セムハ採算上企業者ノ頗ル苦痛トスル所ナルノミナラス施肥ノ増加之ニ伴ハサル爲メ其ノ增收豫期ニ達セス從テ企業ノ意氣ヲ阻喪セシムルニ至リタルコトニ基因スル所大ニシテ今ニシテ之レカ對應策ヲ講スルニアラスンハ益々豫期ノ成果ヲ實現スルノ難キヲ憂ヘシムルモノアリ之レチ帝國食糧問題解決ノ急務ニ鑑ミルトキハ永ク現状ノ儘ニ放任スルヲ容ササルヲ認メ茲ニ從

來計畫ノ一部ヲ更新シ新ニ低利資金ヲ斡旋供給シ事業施行地ノ設計調査並工事ノ指導監督ヲ周到ニシ更ニ肥料増施肥計畫ヲ樹立シ販賣肥料ノ施用ヲ増加セシムルト共ニ自給肥料ノ増産其ノ他ノ農事改良ヲ促シ以テ事業ノ促進ヲ期セムトス之カ内容下記ノ如シ

(一) 土地改良事業

一 土地改良施行面積

大正十五年以降十二個年(完成十四個年)ヲ期シ三十五萬町歩(内灌漑改善十八萬五千町歩、地目變換九萬町歩、開墾千拓七萬五千町歩)ノ土地改良ヲ施行セムトス

二 土地改良ニ要スル資金ノ供給方法及政府ノ支出金額

前記三十五萬町歩ノ土地改良事業ニ要スル資金ハ總額三億三百二十五萬圓ノ見込ニシテ本府ノ補助金六千五百七萬圓及企業者ニ於テ調達スヘキ見込資金三千九百四十八萬四千圓ヲ控除シタル殘額一億九千八百六十九萬六千圓ニ對シテハ低利資金ヲ供給シ事業ノ進捗ヲ圖ルコト、セリ即チ右低利資

金ノ半額ハ政府預金部資金ニ仰キ他ノ半額ハ東洋拓殖會社又ハ朝鮮殖産銀行ノ社債ニ依リ調達シ兩者ヲ合シテ貸出利率平均七朱四厘見當ニ止メシムトス
總督府豫算ニ於テ支出スヘキ金額ハ補助金平均年額約四百六十五萬圓總額六千五百七萬圓ノ外人件費平均年額約六十萬三千圓總額約八百四十四萬餘圓ナリ

(二) 農事改良

一 販賣肥料資金供給

販賣肥料ノ施用ハ旱水害ノ虞少キ安全ナル水田ニ對シ獎勵スヘキ方針ナルヲ以テ從來灌溉設備ヲ有スル水田三十九萬町歩及土地改良ヲ施スヘキ三十五萬町歩合計七十四萬町歩ニ對スル所要資金ヲ供給スルモノニシテ本計畫完成ノ曉ニ於テハ其ノ所要額三千七百萬圓ナリ

二 自給肥料其ノ他農事改良資金供給

前記七十四萬町歩以外ノ稻作ニ施用スル綠肥、堆肥ノ増産及一般稻作ノ増

産ニ必要ナル農事改良資金ヲ供給スルモノニシテ本計畫完成ノ曉ニ於テハ其ノ所要額三百萬圓ナリ

三 資金貸付方法

農事改良資金ハ總額四千萬圓ニシテ其ノ半額ヲ政府預金部資金ニ仰キ他ノ半額ハ東洋拓殖株式會社及朝鮮殖産銀行ノ社債ニ依リ調達セシメ貸出利率平均七朱四厘見當ヲ以テ兩會社ヲシテ之カ貸付ヲ爲サシムトス
尙販賣肥料施用ノ外綠肥堆肥其ノ他自給肥料ノ増産ヲ圖ルハ極メテ緊要ナル事項ナルヲ以テ一定ノ計畫ヲ樹テ紫雲英、青刈大豆等ノ如キ適當ナル綠肥栽培ノ普及ヲ圖ルヘク其ノ所要種子代金ニ對シ補助金ヲ交付シ又栽培ノ實地指導ヲナシ或ハ堆肥ノ改良増産ヲ指導シ販賣肥料ノ購入斡旋ヲ行フ等ノ事業ヲ遂行スル爲地方費ニ對シ國庫ヨリ補助金(大正十五年度ハ二十萬圓ニシテ將來事業ノ進展ニ作ヒ多少増加ノ見込)ヲ交付シ之カ計畫ノ完成ヲ期セムトス

第五章 本計畫ノ効果

本計畫完成ノ曉ハ約八百二十萬石ノ米ノ增收ヲ得ヘシ今其ノ增收内譯ヲ示セ

ハ左ノ如シ

- 一 三十五萬町歩ノ土地改良事業完成ニ依リ得ラルヘキ增收高約二百八十四萬石
- 二 前記土地改良地域ニ對シ施肥ノ増加並ニ耕種法改良ヲ行フコトニ依リ得ラルヘキ增收高百九十二萬石
- 三 土地改良ヲ施行セサル百三十九萬町歩ニ對シ耕種法ノ改良ノミニ依リ得ヘキ增收高約三百四十四萬石

計 八百二十萬石

而シテ右ノ内約三百萬石ハ鮮内需要ノ増加ニ振り向ケラルヘキヲ以テ現在約五百萬石ノ内地移出米ニ加ヘ本計畫完成ノ上ハ約一千萬石ヲ内地ニ供給シ得ヘキ見込ナリ

第一表 内地ト朝鮮ノ氣温比較表

同緯度地方	年平均	稻作期間					以上平均
		六月	七月	八月	九月	以上平均	
木浦(朝鮮)	一三、一	二〇、四	二四、四	二六、〇	二一、八	二三、二	
東京(内地)	一三、九	二〇、五	二四、一	二五、五	二一、九	二三、〇	
京城(朝鮮)	一〇、九	二一、〇	二四、五	二五、五	二〇、一	二二、八	
山形(内地)	一〇、七	一九、一	二二、九	二三、九	一九、三	二一、三	
平壤(朝鮮)	九、一	二〇、三	二三、九	二四、三	一九、七	二一、八	
水澤(内地)	九、七	一七、七	二一、七	二三、一	一八、四	二〇、二	
龍岩浦(朝鮮)	八、一	一九、二	二三、〇	二三、八	一八、〇	二一、〇	
宮古(内地)	一〇、一	一六、〇	二〇、〇	二二、〇	一八、四	一九、一	

備考 氣象觀測開始ヨリ大正十三年迄ノ平均

第二表 内地ト朝鮮ノ日照時數比較表

同緯度地方	年晝時間ニ對スル日照時ノ%	稻作期間日照時數				計
		六月	七月	八月	九月	
木浦(朝鮮)	五二	一九一、四四	一九五、六一	二三六、五〇	二二一、四〇	八三四、九五
東京(内地)	四八	一五二、四七	二〇五、八三	二二五、二一	一四九、六九	七二三、二〇
京城(朝鮮)	五七	二三八、八七	二〇八、三八	二二四、七〇	二〇三、一〇	八七五、〇五
山形(内地)	三八	一七四、三五	一八八、五一	二二〇、〇〇	一一九、四三	七〇二、二九
平壤(朝鮮)	六二	二六四、九八	二三〇、三一	二二五、九一	二三三、八四	九五五、〇四
水澤(内地)	三六	一五三、八〇	一四〇、七〇	一五七、一六	九六、四六	五四八、一二
龍岩浦(朝鮮)	六一	二四九、九五	二二六、三一	二二一、八四	二二三、〇八	九二一、一八
宮古(内地)	四七	一八四、〇五	一九五、二〇	二〇五、四八	一二七、六六	七一二、三九

備考 大正五年ヨリ大正十二年ニ至ル平均

第三表 朝鮮米輸移出額表

年次	輸出額		移出額		輸移出額合計	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
明治四十三年	二七六	二、一二四	五三六	四、一五三	八一三	六、二七七
同 四十四年	二五二	二、四五七	三〇八	二、八二六	五六〇	五、二八三
大正元年	二四一	三、二六七	三〇八	四、二五七	五四九	七、五二四
同 二年	一八九	三、〇八二	六六八	一一、四一一	八五八	一四、四九三
同 三年	二二九	二、八四四	一、〇九二	一四、二五四	一、三二一	一七、〇九八
同 四年	三五一	三、一八三	二、一一六	二一、三三二	二、四六八	二四、五一六
同 五年	四一二	四、九九五	一、一九三	一四、三六〇	一、六〇五	一九、三五六
同 六年	五二一	九、五三四	一、〇七六	一七、八八二	一、五八八	二七、四一六
同 七年	一七〇	四、九一五	一、九六二	五六、六二五	二、一三三	六一、五四一
同 八年	七四	二、四八〇	二、六七五	一〇六、五五〇	二、七五〇	一〇九、〇三〇
同 九年	九四	三、七九四	一、八九三	七三、二一四	一、九八七	七七、〇〇八
同 十年	一六一	四、〇一七	三、二〇六	八八、七九五	三、三六八	九二、八一二
同 十一年	六八	二、一〇七	二、九六〇	九三、六九七	三、〇二八	九五、八〇五
同 十二年	二九	一、〇三〇	三、八七五	一一二、九五四	三、九〇四	一一三、七〇三
同 十三年	二八	一、〇三〇	四、八五七	一六三、四五三	四、八八六	一六四、四八三
同 十四年(概算)	一二	五〇七	四、五四九	一七二、四二九	四、五六一	一七二、九三六

第四表 内地ニ於ケル外國米輸入量及金額表

年次	輸入量	金額
明治四十三年	九一八 <small>千石</small>	八、六四三 <small>千圓</small>
同 四十四年	一、七一九	一七、七二一
大正元年	二、二三四	三〇、一九三
同 二年	三、六三七	四八、四七二
同 三年	二、〇二二	二四、八二三
同 四年	四五七	四、八八六
同 五年	三〇九	三、〇八七
同 六年	五六四	六、五一三
同 七年	四、六四七	八九、七五五
同 八年	四、六四二	一六二、〇七〇
同 九年	四七一	一八、〇五九
同 十年	一、五九五	二八、八一二
同 十一年	三、〇四三	六一、二七五
同 十二年	一、七六九	三〇、七一八
同 十三年	三、二六八	七〇、八六六
同 十四年	五、一四一	一二〇、四九四

第五表 産米増殖計畫總括

一 事業施行面積	三五〇、〇〇〇町歩
二 事業資金總額	三五一、六九二千圓
内 譯	
A 土地改良事業資金	三〇三、二五〇千圓
B 土地改良事業施行ニ伴フ政府人件費	八、四四二千圓
C 農事改良事業資金	四〇、〇〇〇千圓
三 事業資金ノ構成	三五一、六九二千圓
内 譯	
A 土地改良ニ要スル政府ノ人件費	八、四四二千圓
B 土地改良助成金(補助金)	六五、〇七〇千圓
C 調達所要金	二七八、一八〇千圓
(a) 企業者調達金	三九、四八四千圓
(b) 政府斡旋資金	二三八、六九六千圓

第六表 土地改良施行面積表

年次	灌漑改善(大)		灌漑改善(小)		地目變換		開墾干拓		計
	着手	竣工中竣工	着手	竣工中竣工	着手	竣工中竣工	着手	竣工中竣工	
大正十五年	13,000	13,000	2,500	2,500	7,500	7,500	6,250	6,250	29,250
十六年	13,000	13,000	2,500	2,500	7,500	7,500	6,250	6,250	29,250
十七年	13,000	13,000	2,500	2,500	7,500	7,500	6,250	6,250	29,250
十八年	13,000	13,000	2,500	2,500	7,500	7,500	6,250	6,250	29,250
十九年	13,000	13,000	2,500	2,500	7,500	7,500	6,250	6,250	29,250
二十年	13,000	13,000	2,500	2,500	7,500	7,500	6,250	6,250	29,250
廿一年	13,000	13,000	2,500	2,500	7,500	7,500	6,250	6,250	29,250
廿二年	13,000	13,000	2,500	2,500	7,500	7,500	6,250	6,250	29,250
廿三年	13,000	13,000	2,500	2,500	7,500	7,500	6,250	6,250	29,250
廿四年	13,000	13,000	2,500	2,500	7,500	7,500	6,250	6,250	29,250
廿五年	13,000	13,000	2,500	2,500	7,500	7,500	6,250	6,250	29,250
廿六年	13,000	13,000	2,500	2,500	7,500	7,500	6,250	6,250	29,250
廿七年	13,000	13,000	2,500	2,500	7,500	7,500	6,250	6,250	29,250
廿八年	13,000	13,000	2,500	2,500	7,500	7,500	6,250	6,250	29,250
計	130,000	130,000	25,000	25,000	75,000	75,000	62,500	62,500	292,500

單位 町

第七表 事業資金所要額表

年次	總額		土地改良事業資金		同政府人件費		農事改良金		補助金		政府人件費		企業者負擔		政府幹旋金	
	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
大正十五年	21,683	21,683	13,069	13,069	706	706	7,908	7,908	2,598	2,598	706	706	1,379	1,379	17,000	17,000
十六年	25,778	25,778	14,022	14,022	815	815	7,800	7,800	5,281	5,281	815	815	3,282	3,282	17,000	17,000
十七年	26,306	26,306	14,727	14,727	799	799	7,800	7,800	5,167	5,167	799	799	3,135	3,135	17,000	17,000
十八年	26,101	26,101	14,177	14,177	799	799	7,800	7,800	5,167	5,167	799	799	3,135	3,135	17,000	17,000
十九年	25,879	25,879	14,047	14,047	607	607	7,800	7,800	5,167	5,167	607	607	3,135	3,135	17,000	17,000
二十年	25,879	25,879	14,047	14,047	607	607	7,800	7,800	5,167	5,167	607	607	3,135	3,135	17,000	17,000
廿一年	25,869	25,869	14,047	14,047	597	597	7,800	7,800	5,167	5,167	597	597	3,135	3,135	17,000	17,000
廿二年	25,869	25,869	14,047	14,047	597	597	7,800	7,800	5,167	5,167	597	597	3,135	3,135	17,000	17,000
廿三年	25,869	25,869	14,047	14,047	597	597	7,800	7,800	5,167	5,167	597	597	3,135	3,135	17,000	17,000
廿四年	25,736	25,736	13,675	13,675	464	464	5,997	5,997	5,167	5,167	464	464	3,135	3,135	17,000	17,000
廿五年	25,736	25,736	13,675	13,675	464	464	5,997	5,997	5,167	5,167	464	464	3,135	3,135	17,000	17,000
廿六年	26,596	26,596	14,790	14,790	464	464	5,997	5,997	5,167	5,167	464	464	3,135	3,135	17,000	17,000
廿七年	22,234	22,234	11,896	11,896	464	464	2,774	2,774	3,930	3,930	464	464	840	840	17,000	17,000
廿八年	21,157	21,157	7,876	7,876	462	462	1,319	1,319	2,666	2,666	462	462	933	933	17,000	17,000
計	351,693	351,693	191,150	191,150	8,441	8,441	40,000	40,000	65,076	65,076	8,441	8,441	39,484	39,484	336,696	336,696

單位 千圓

第八表 政府幹旋資金使途區分表

單位 千圓

年次	預金部資金			普通資金			合計	
	土地改良資金	農事改良資金	計	土地改良資金	農事改良資金	計	土地改良資金	農事改良資金
大正十五年	四、五四三	九、五四八	一四、〇九一	四、五四六	三、九五四	八、五〇〇	九、〇九二	七、九〇八
十六年	七、二〇〇	一、二八〇	八、四八〇	一、二八一	三、九一〇	五、二〇〇	一四、四三九	二、五六一
十七年	八、一一〇	三、九〇〇	一二、〇一〇	八、一一〇	三、九〇〇	一二、〇一〇	一六、二二〇	七、八〇〇
十八年	七、九三七	五、六三三	一三、五六〇	七、九三八	五、六二二	一三、五六〇	一五、八七五	一、一二五
十九年	七、八八八	六、一三三	一四、〇二一	七、八八七	六、一三三	一四、〇二〇	一五、七七五	一、二二五
二十年	七、八八七	六、一三三	一四、〇二〇	七、八八七	六、一三三	一四、〇二〇	一五、七七五	一、二二五
廿一年	七、八八七	六、一三三	一四、〇二〇	七、八八七	六、一三三	一四、〇二〇	一五、七七五	一、二二五
廿二年	七、八八七	六、一三三	一四、〇二〇	七、八八七	六、一三三	一四、〇二〇	一五、七七五	一、二二五
廿三年	七、七〇二	七、九八八	一五、六九〇	七、七〇一	七、九八九	一五、六九〇	一五、四〇三	一、五九七
廿四年	七、七〇一	七、九八八	一五、六八九	七、七〇二	七、九八八	一五、六九〇	一五、四〇三	一、五九七
廿五年	七、七〇二	七、九八八	一五、六九〇	七、七〇一	七、九八九	一五、六九〇	一五、四〇三	一、五九七
廿六年	七、八二九	六、七七一	一四、五〇〇	七、八二九	六、七一	一四、五〇〇	一五、六五八	一、三四二
廿七年	七、一三一	三、八七八	一〇、九〇〇	七、一三一	一、三八七	八、五〇〇	一四、二二六	二、七七四
廿八年	一、九三八	六、九一〇	八、八四八	一、九三九	六、九〇九	八、八四八	三、八七七	一、八一九
計	九、三四八	三〇、〇〇〇	三九、三四八	九、三四八	三〇、〇〇〇	三九、三四八	九八、六九六	三三、八六六

第九表 政府幹旋資金利率表

政府ノ幹旋スル資金二三八、六九六、〇〇〇圓ニ對シ其ノ半額十四個年
平均年額約八、五〇〇、〇〇〇圓ヲ大藏省預金部資金ニ仰キ他ハ東拓殖
銀等ノ社債ニ依ルモノトス

金利

種類	金額	調達金利	利轄	貸出平均金利	摘要
預金部資金	一一九、三四八、〇〇〇	五朱一厘	八厘		
普通資金	一一九、三四八、〇〇〇	七朱七厘	一朱二厘		
計	二三八、六九六、〇〇〇	六朱四厘	一朱	七朱四厘	

中ニカ、ハ
輝出張報
録レタハ

第三 産米増殖計畫ニ對スル批判

産米計畫ノ綱要ハ之ヲ前項ニ於テ述ベタリ而シテ本計畫
ハ現今朝鮮ニ於ケル各種産業施設中ノ最大項目ニシテ總督
府政策中一又最モ重要ナルモノニ屬シ之カ成否ハ當ニ朝鮮産
業ノ隆替ニ關スル所甚カラサルノミナラス亦帝國ノ食糧政策
ニ影響スル所多ク且將來ニ亘リ内地官民カ巨額ノ資金ヲ投
下スルノ外直接國費ノ支出ヲ要スルモノモ少額ニ非サルヲ以テ茲ニ
聊カ論評ヲ加ハシテアラントス

朝鮮が大正八年以來産米計畫ヲ以テ重要産業政策ト為シ
タルニトシテ趣旨ニ對シテハ世間ノ多数ト共ニ筆者モ亦之ヲ諒トスル
者ナリ。蓋シ帝國ノ食糧問題ノ解決上我々我國内ニ於テ産米
ノ増殖ヲ圖ルニトシテ必要ナルトハ素ヨリ多言ヲ要セス而モ朝鮮
ハ前來屢ニ論シタル如ク當ニ氣候風土並住民ノ素質ニ

米ノ